

主題：  
聖書の中の極めて重要な命の啓示

メッセージ 14

ローマ人への手紙第 8 章——聖書全体の焦点と宇宙の中心

聖書：ローマ 8:2, 10, 4-6, 11, 13-15, 28-29

- I. ローマ人への手紙が啓示しているのは、手順を経た三一の神が命の霊の法則として、信者たちの生活のために、彼らに神聖な命を与えるということです——2, 10, 6, 11, 28-29 節：
- A. 神の願いと目標は、わたしたちが神聖な命によって生き、召会を建造するために他の人たちに命を分け与えるということです。この命はキリスト・イエスの中にあり、それは命の霊の法則の命です。すべてを含む、内住の霊は、この命を、わたしたち一人一人の中へと絶えず伝達して、召会を建造し、聖徒たちを啓発し、わたしたちと接触するあらゆる人にキリストの豊富を分け与えます——2 節。 II コリント 3:6. I ヨハネ 5:16。
- B. わたしたちは命の霊の法則によって、人として生きる道を見る必要があります。わたしたちは命の霊の法則によって制御され、導かれて、真の正常なクリスチャン生活を経験しなければなりません——ローマ 8:2：
1. わたしたちは霊にしたがって歩く必要があります——4 節：
    - a. もしわたしたちが自分自身のため、自分自身の興味や利益のために、何事かを主張するなら、たとえその事自体は罪深く、不道徳でなくても、わたしたちは肉にしたがって歩いています。
    - b. 聖書によれば、第三の選択肢、中立の領域はありません。あらゆる事は肉か霊のどちらかによります——4, 6, 9 節。 ヨハネ 3:6. ガラテヤ 5:17. 6:8. I ペテロ 3:18。
    - c. わたしたちが肉を落とすと、残るのは霊です。わたしたちは肉が何であるかを知っているのです、単に肉にしたがって歩かないことによって、霊にしたがって歩くことができます。
  2. わたしたちは霊にしたがう必要があります——ローマ 8:5：
    - a. 霊にしたがって生き、肉にしたがって生きないことは、内なる法則、すなわち、命の霊の法則の実体化です——2 節。
    - b. 肉にしたがうことは、罪と死の法則にたとえられる重力の法則にしたがって、地上に立ち続けるようなものです。
    - c. 霊にしたがうことは、命の霊の法則にたとえられる航空力学の法則にしたがって、飛行機に乗っているようなものです。
    - d. わたしたちのミングリングされた霊の中にある命の霊の法則には、わたしたちの肉の中にある罪と死の法則に打ち勝つ力があります。
    - e. わたしたちが霊にしたがうことを選択するなら、命の霊の法則は自然にわたしたちを罪と死の法則から解放します。命の霊の法則は、わたしたちの助けを必要としませんが、わたしたちの同意を必要とします——参照、6 節。
    - f. わたしたちはあらゆる場所で、どんな時にも、わたしたちの霊を活用して、命の霊

の法則に「スイッチを入れる」霊的な習慣を建て上げる必要があります—— I テモテ 4:7。

- g. 命の霊の法則、神の霊、キリストの霊、復活させる霊は、あらゆる信者の中に設置されています。主の命の供給を受けるために、わたしたちは彼の御名を呼び、彼を礼拝し、感謝し、賛美し、高く上げることによって、わたしたちの霊を活用する必要があるだけです——イザヤ 12:2-6。

3. わたしたちはその霊の事柄を思う必要があります——ローマ 8:5 :

- a. その霊の事柄を思うとは、わたしたちの思いをその霊の事柄に付けること、すなわち、わたしたちの思いをその霊の事柄で占有させることです。その霊の事柄とは、キリストに関する事柄です。
- b. 神の霊の事柄は、神の深い事柄です。神の深い事柄としてのキリストを実際化し、あずかるためには、わたしたちが彼を愛する必要があります—— I コリント 2:9-11, 14。
- c. わたしたちは思いを、その霊の事柄、すなわち、キリストに関する事柄で絶えず占有させる習慣を建て上げるよう訓練する必要があります。
- d. 雅歌によれば、追い求める者は主への愛に病んでいます (2:5. 5:8) 。彼女の思いの中には、主のほか何ともありません。わたしたちはそのような思いを持つ必要があります。
- e. 霊的な戦いの秘訣は、わたしたちの思いをむなしくさせないことです。二つ霊、すなわち、わたしたちの人の霊を伴う神の霊は、キリストに関するすべての事柄をわたしたちの思いと結合させます。二つ霊によって、わたしたちの思いがキリストに関する事柄と結合されている限り、わたしたちは勝利を得ます——ローマ 8:6, 16。
- f. ローマ第 8 章 6 節の「霊に付けた思い」という表現は、文字通りには、「霊の思い」です。キリストの思い、霊の思いとは、キリストで満たされ、占有され、浸透された思いです——ピリピ 2:5. I コリント 2:16。

4. わたしたちは体の行ないを死に渡す必要があります——ローマ 8:13, 5 :

- a. 体の行ないとは、わたしたちの古い習慣です。これらの行ないは、罪深い事柄だけでなく、その霊から離れて、わたしたちの体によって行なわれるあらゆることを含みます。
- b. わたしたちは内住の霊と協力し、率先して体の行ないを死に渡す必要があります。そうすれば、その霊が来て、キリストの死の効力を、これらの行ないに適用し、こうしてそれらを殺します。

5. わたしたちは神の霊によって導かれる必要があります——14 節 :

- a. わたしたちはその霊の導きを追い求める必要はありません。なぜなら、それはすでにわたしたちの内側に存在し、わたしたちの再生された霊の中に住んでいるからです。もしわたしたちがこの導きの下で生きるなら、わたしたちは神の息子であることを証明する方法で歩き、振る舞うでしょう。
- b. ここの導きは、単なるその霊の行動ではありません。それは、三一の神ご自身がわたしたちの霊の中で導きとなることです。もしわたしたちが、わたしたちに内住するパーソンとしての彼を顧みようとするなら、自然に彼によって導かれるでしょう。

6. わたしたちは「アバ、父よ！」と叫ぶ必要があります——15 節：

- a. 「アバ」はアラム語であり、「父」は「パテル」というギリシャ語の訳です。アラム語の呼び名とギリシャ語の呼び名との組み合わせは、父に向かって叫ぶ強い愛情を表します。
- b. そのような愛情のこもった叫びは、真の子と生みの父親との間の、命における親密な関係を暗示します。——16 節。

II. ローマ第 8 章は聖書全体の焦点と宇宙の中心と考えられます。こういうわけで、もしわたしたちがローマ第 8 章を経験しているなら、わたしたちは宇宙の中心にいます：

- A. 過去の永遠において、神は彼の贖われた民の中に入ることを計画しました。それは、彼が彼らの命となることができ、また彼らが神の団体の表現となることができるためでした。これが神のエコノミーの焦点です——エペソ 1:3-5。
- B. 人は神の創造の中心です。なぜなら、神の意図は人を通して表現されることであるからです。人は、神によって生き、彼を生かし出しさえするために、神が人の中へと入って、人の命と内容となり、人を神と一にならせることによって、はじめて神の表現となることができます。このようにして、神は人の内側から表現されます。
- C. ゼカリヤ書第 12 章 1 節は言います、「天を延べ、地の基を据え、人の霊をその中に形づくられたエホバはこう告げられる」：
  1. 人の霊は天と地に匹敵します。なぜなら、わたしたちの霊は神が住むことを願っている場所であるからです——エペソ 2:22. 参照、II テモテ 4:22。
  2. 天は地のため、地は人のためであり、人が神によって霊をもって創造されたのは、人が神と接触し、神を受け、神を礼拝し、神を生き、神のために神の定められた御旨を成就し、神と一になるためです。
- D. 宇宙の中心的な焦点は、手順を経た神がわたしたちの中へと入り、今やわたしたちの中に住んでいるということです。これは最大の奇跡です。宇宙における他の何事もこれ以上に重要ではありません——イザヤ 66:1-2. ヨハネ 14:23. 15:4。
- E. 三一の神がわたしたちに内住し、わたしたちと一であるのですから、わたしたちはみな喜びに満ちているべきです。彼はわたしたちの命であり、わたしたちのパーソンです。また彼はわたしたちを彼のホームにしています——エペソ 3:14-17。
- F. ローマ第 8 章の内住の霊は三一の神です：
  1. 「神の霊」という表現の「霊」と「神」は同格であり、霊と神が一であることを示しています——9 節。
  2. 同様に、ローマ第 8 章の「キリストの霊」、「イエスを死人の中から復活させた方の霊」、「命の霊」は、その霊が、キリスト、復活させた方、命であることを示しています。ですから、その霊がわたしたちに内住しているので、三一の神の三はすべて命としてわたしたちの中にいます——9, 11, 2 節。
  3. ローマ第 8 章のその霊は、三一の神の究極的な完成であり、適用である、すべてを含む霊です。その霊は、三一の神がわたしたちに届くことであり、適用です。
  4. すべてを含む霊としての三一の神は、わたしたちが彼をわたしたちの命とし、またわたしたちのパーソンとすることによって経験し、享受するために、わたしたちの中にいます。わたしたちは三一の神の容器です——II コリント 4:7。

- G. キリストはわたしたちの中へと入るとき、わたしたちの霊は再生され、わたしたちの霊を命とさせます（ローマ 8:10）。わたしたちが主を愛し、わたしたちの思いを彼に関する事柄に付けるとき、わたしたちの思いは命です（6 節）。さらに、復活させた方の霊がわたしたちに内住しているなら、彼はわたしたちの体に命を与えます（11 節）：
1. 神のエコノミーと永遠の定められた御旨によれば、神が彼の救いの中で行ないたいことは、ご自身をわたしたちの命として、彼の贖われた民であるわたしたちの中へと造り込むことです。ご自身をわたしたちの命として、わたしたちの中へと造り込むという彼の願いが、聖書の焦点です。
  2. わたしたちの霊、思い、体に与えられる命は、三一の神の究極的な完成と適用である内住の霊です。
  3. もしわたしたちが弱く、命に欠けているなら、それはわたしたちが霊的な呼吸に欠けているからです。霊的に呼吸することは主の御名を呼び求めることです——哀 3:55-56. 詩歌 65 番、2 節。
  4. わたしたちが絶えず命としてのその霊を吸い込み、彼にわたしたちの全存在の中へと広がっていただくなら、キリストがますますわたしたちの中へと加えられます。これが、わたしたちの存在において主観的な神を所有し、経験し、享受することです。
  5. このように神がわたしたちの存在の中へと加えられるとき、わたしたちは命の要素を受け、それによって成長し、キリストのからだが建造されます——コロサイ 2:19。
  6. わたしたちがこの命の要素をもって成長するとき、命の霊の法則はわたしたちの中で自動的に働いて、わたしたちをキリストのかたちに形づくり、同形化します。キリストのからだ、キリストの豊満、新しい人、神と人による相互の住まいは、わたしたちがこの命を経験した結果です——ローマ 8:29。
  7. 最終的に、この命はキリストの花嫁を備え、それによって主は戻って来て、わたしたちを次に時代にもたらしめます。こういうわけで、聖書と宇宙の極めて重要な焦点がローマ第 8 章の中にあります。